

「サラート(礼拝)の意味」

@御徒町マスジドにおける 2018.1.5.金曜フタバ要約 by 杉本恭一郎

一般的にイスラームにおけるサラートは、日本語で礼拝と訳されます。しかし礼拝はサラートの正確な意味を完全に反映していません。なぜなら礼拝とは神様を拝むこと、敬うことを意味しますが、サラートとは単に神様を拝むこと、敬うことにとどまりません。サラートとは唯一神のアッラーに感謝すること、彼の導きを求めること、そして悪行を遠ざけ、私たちの心や魂を洗濯すること（罪を洗い流すこと）、そして善行へのプログラミングです。

クルアーン29章45節「あなたに啓示された啓典を読誦しなさい。そしてサラートの務めを守りなさい。本当にサラートは、淫らな行為と悪行から遠ざける」とあります。私たちムスリムは、善を行ない、悪を禁じることを形にするため、1日5回サラートを通じてアッラーの言葉を、私たちの心に「クルアーンというプログラム」を書き込んでいるのです。

でも多くのムスリムは、サラート中、集中できず意識があちこちへと動いたという経験があるはずで、ではなぜ意識はゆらゆらするのか？なぜなら私たちの意識は空っぽだからです。一方で意識は空っぽではいけないからです。だから考えが行ったり来たりするのです。私たちは、ほとんどがアラブ人ではないので、クルアーンの音を記憶しただけでは意味がわかりません。意味を想起しないので、意識があちこちへ動く可能性が大きいわけです。

だからアラビア語で読み上げる章節の意味を1つ1つ想起していくことが大切になってきます。アラビア語だけのときと比べれば、アラビア語で読み、その翻訳を心で読み、その意味を想起することで心がより集中することには間違いはないはずです。もし日本語が母語であるならば、日本語の翻訳を思い出してください。もし英語が母語であるならば、英語の翻訳を思い出すことが必要です。例えば、日本語の場合、(1)慈悲あまねく慈悲深いアッラーの御名において。(2)全存在の主アッラーにすべての称賛あれ。(3)慈悲あまねく慈悲深いお方。(4)最後の審判の日をつかさどる方です。(5)わたしたちは、あなただけに仕え、あなただけに助けを求めます。(6)わたしたちをまっすぐな道に導いてください。(7)その道とはあなたが恵みを与えた人びとの道であり、怒りをかうこともなく、迷ってもいない人びとの道です。

続いてクルアーン5章90節を読み上げるとします。「信仰する人たちよ、誠に酒と賭け事、偶像と占い矢は不浄な悪魔の行為です。だからそれを避けなさい。そうすればあなたがたは成功するでしょう」とあり、ここでは、お酒やギャンブルをしないように、偶像を拝まないように、サラートによって脳と心にプログラミングされます。またクルアーン61章2節を読み上げたとき、「信仰する人たちよ、あなたがたはどうして自ら行なわないことを口にするのか」とあります。約束をしたら破ってはいけない、この1節だけでも、しっかり実行すれば、ムスリム社会はとて良くなります。でもイマームが読み上げた意味がわからなければ、サラートの効用は半減し、善行へのシフトは起こりません。

またサラートは、私たちに心の平安をもたらします。クルアーン13章28節いわく、「これらの信仰した人たちは、アッラーを唱念し、心の安らぎを得る。アッラーを唱念することにより、心の安らぎが得られないはずがないのである」サラートは、ネガティブな思考（無力感、不安、悲嘆、怠惰、けち、臆病など）を断ち、ポジティブな思考（アッラーという原理原則：真理、富裕、賢明、平和、感謝、親切、正義、光明、偉大、無限、赦しなど）へと心の力を前向きにするためのプログラミングなのです。

「言いなさい。わたしのサラートと犠牲、わたしの生と死は、全存在の主、アッラーのためです。かれに同位はないと、わたしはそのように命じられました。そしてわたしはムスリムの先駆けなのです」（クルアーン6章162～163節）